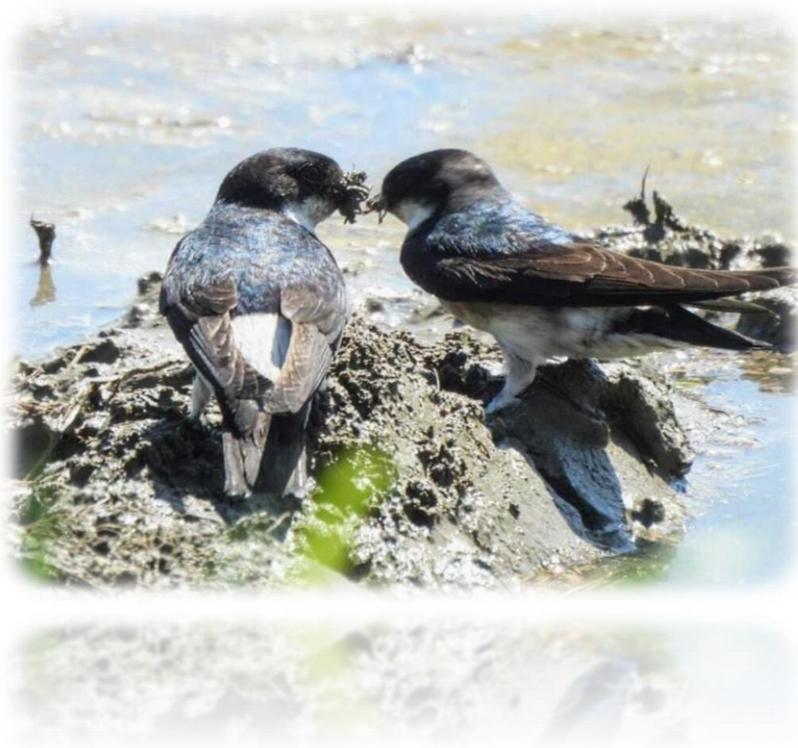


れいわ ねんど みちか かんきょうしみんちょうさ
令和6年度「身近な環境市民調査」

ツバメ

ちょうさけっかほうこくしょ 調査結果報告書

ちょうさきかん れいわ ねん がつ か がつ にち
○調査期間：令和6年4月7日～8月31日



れいわ ねんど みちか かんきょうしみんちょうさ
令和6年度「身近な環境市民調査」

ツバメ

ちょうさけっかほうこくしょ
調査結果報告書

ちょうさきかん れいわ ねん がつ か がつ にち
○調査期間：令和6年4月7日～8月31日



もくじ

1 本調査について

(1) 「身近な環境市民調査」とは	1
(2) ツバメ調査事前資料（講師 植田 潤 氏 提供資料）	2
(3) 令和6年度ツバメ調査概要	7
(4) メッシュコードについて	8

2 調査結果

(1) 報告数	
a 飛んでいるようす	10
b 巣のようす	11
(2) 発見日別	
a 飛んでいるようす	12
b 巣のようす	13
(3) 地域別	
a 飛んでいるようす	16
b 巣のようす	17
(4) 場所別	
a 飛んでいるようす	18
b 巣のようす	20
(5) 種類別	
a ツバメ	23
b コシアカツバメ	25
c イワツバメ	27

3 平成5年度、平成28年度及び令和6年度の比較

(1) 各年度の調査について	28
(2) 飛んでいるようすの比較	29
(3) 巣のようすの比較	30
(4) 【ツバメ限定】地域別	
a 飛んでいるようす	31
b 巣のようす	32
(5) 【ツバメ限定】場所別	33

4 調査を振り返って

「ツバメ調査」を振り返って（講師：植田 潤 氏）	34
調査員の皆様からの感想	36

1 本調査について

(1) 身近な環境市民調査とは

毎年、対象となる生き物を1種類定めて、登録いただいた市民の皆さまに、調査と報告を行っていただくものです。

皆さまが自ら大津市の自然環境の状況を調査することで、身近な地域の自然を見つめなおし、自然への関心を高めていただくことを目的としています。また、調査結果をまとめ、公表することで、より広い市民の方々への情報発信を行っていきます。

調査の流れ

○調査する生き物について、よく知ることからスタートします。

→ 勉強会で生き物の観察ポイントなどについて学習していただけます。

○身近に存在する生き物たちを、一定期間調査し、大津市へ報告します。

→ 調査期間、調査方法は、大津市からお知らせします。また、調査に必要な報告用紙なども配布いたします。報告はメールやFAX、本市からお配りする返信用封筒で行います。

○調査する場所は、大津市内であれば自由です。ご自身で決めていただけます。

→ 家の周りやいつもの散歩道など、無理のない日常生活の範囲内で実施していただけます。

○皆さまからいただいた報告をもとに、大津市が報告冊子やポスターを作成します。

→ できあがった報告冊子やポスターは、学校や図書館へ配布するほか、大津市ホームページに掲載し、広く公表します。

ちょうさじぜんしりょう こうし うえだ じゆん し ていきょうしりょう
(2) ツバメ調査事前資料 (講師 植田 潤 氏 提供資料)

大津市で見られるツバメの仲間

1. ツバメ

学名 : *Hirundo rustica*

田舎に住む

ツバメの意味

喉が赤い

風切羽の裏面も黒

尾羽が2又に分かれて長い

体長 : 約17 cm

翼開長 : 約32 cm

尾羽の長さ : 約7~10 cm

体重 : 約20 g

長い翼をもち、外側が細く長くなった尾羽が特徴。喉と額が赤く飛んでいても目立つ。

◎地鳴き ツピッ、チピッ

◎さえすり チキュチキュチキュチーキュジー 最後にジーとつける。

「土食って虫食って渋一い」と聞きなす。

3月下旬から現れ、人家の軒下や、人通りの多い人口構造物の壁に土でつくったお椀状（大きく口の開いた）の巣を作る。

エサは飛翔昆虫（トンボ、カゲロウ、ハエ、ユスリカ、ガなど）

地面に降りてくちばしで土をとり、巣を作るので「土食み（つちばみ）」と呼ばれた。

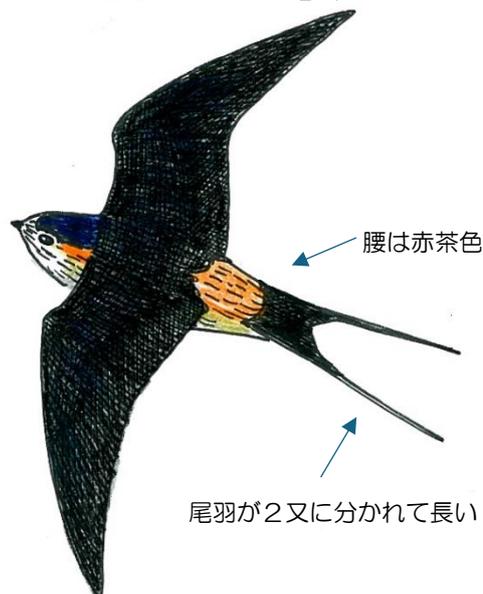
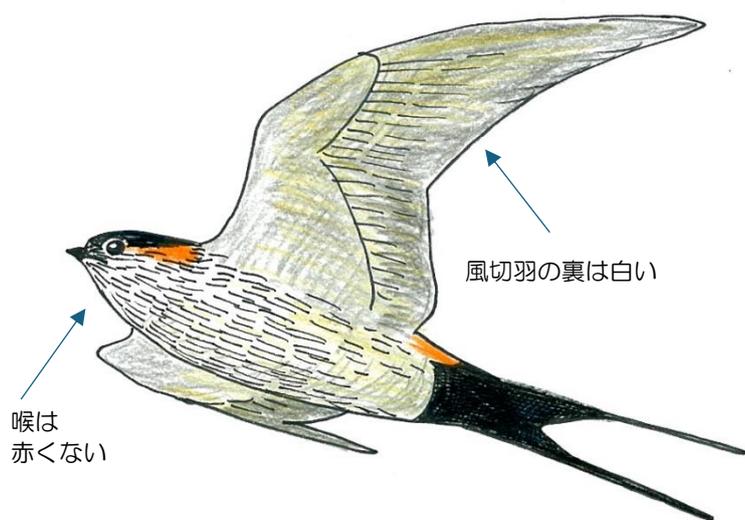
「チ」を略し、「ミ」が「メ」に変わりツバメになったとされている。ツバメの古名「ツバクラメ」も「土喰黒女（つちばみくろめ）」の略であるという説がある。乙鳥（おつちょう）玄鳥（げんちょう）ともいう。



2. コシアカツバメ

学名：*Hirundo daurica*

ドーリア地方のツバメの意味



体長：約19 cm

翼開長：約33 cm

尾羽の長さ：約9～11 cm

体重：約23 g

ツバメよりひとまわり大きく、腰が赤茶色であるのが特徴。尾羽はツバメより長くスマートに見える。飛び方がツバメよりゆっくりで滑空することが多い。

◎地鳴き ジュピ、ヴィ ツバメより低い声

◎さえずり ジュリジュリチュルルルジュリジュリリリリリ・・・
ツバメに比べ弱く単調な声

ツバメより約1か月遅い4月中旬に現れ、橋げたの下や大きな建物の天井に土でつくったトックリ状の巣を作る。

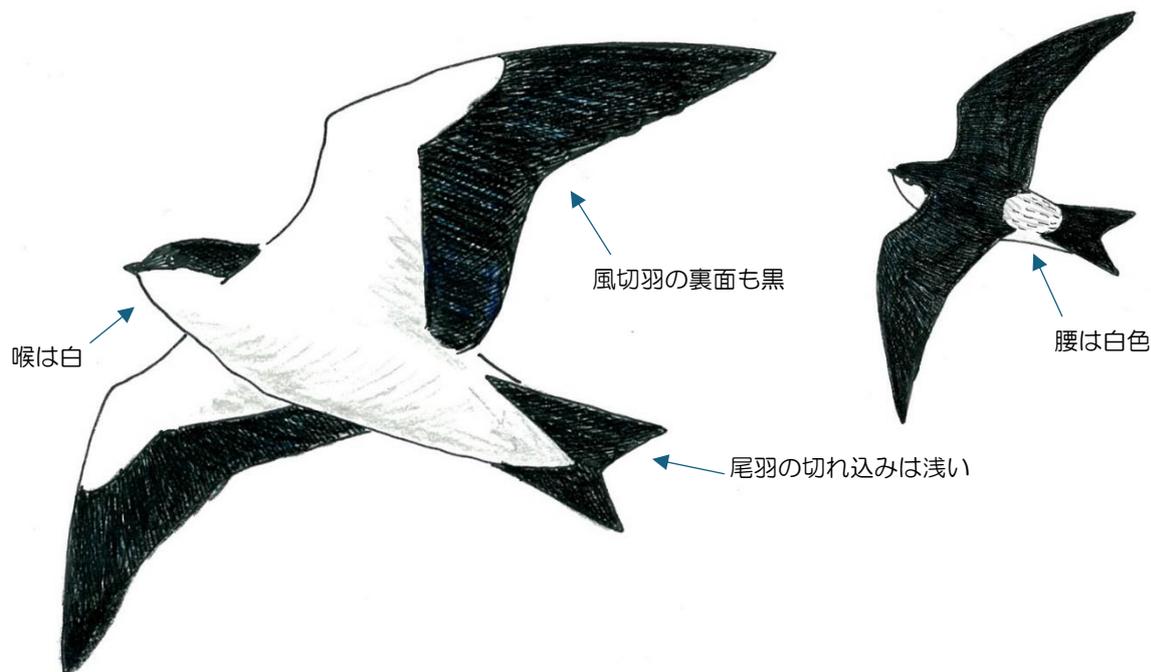
小集団（コロニー）で営巣することが多く、同じ建物に数個の巣を発見できる。

エサはツバメと同じ飛翔昆虫



西南日本に多いツバメで北日本に行くほど減少する。大津市では湖西線の高架下や駅構内でコロニーが見られる。近年周辺の住宅地などで1羽ずつで巣を作る観察例が増えている。

3. イワツバメ 学名：*Delichon dasypus* 都会に住むツバメの意味



体長：約15cm 翼開長：約30cm
尾羽の長さ：約9～11cm 体重：約23g

ツバメよりひとまわり小さく、腰が白色であるのが特徴。尾羽は浅いV字型で広げると切れ込みがないように見える。高空を飛んでいることが多く、飛び方も素早い。

◎鳴き声 ジュリリリリ、チュビ、ヴィジュールルル
決まったさえずりはない。

巣には3月下旬に現れ、橋げたの下や大きな建物の天井に入口の狭い皿またはお椀状の巣を作る。

集団（コロニー）で営巣することが多く、大きな群れは50巣を超えることもある。

エサは他のツバメと同じ飛翔昆虫



高山や海岸部で見られる種であったが、1990年代から滋賀でも橋梁で繁殖するようになった。大津市では367号線沿いの橋にコロニーがよく発見される。

ツバメの生態

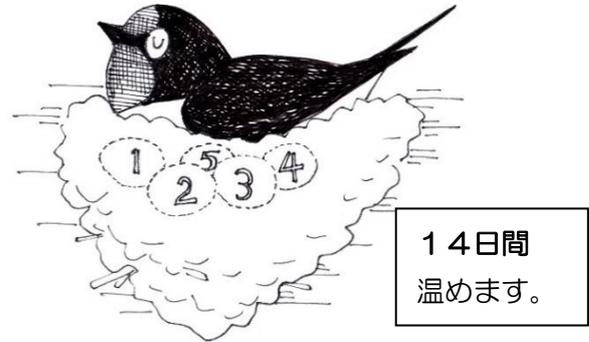
1. ツバメの子育て

①造巢期



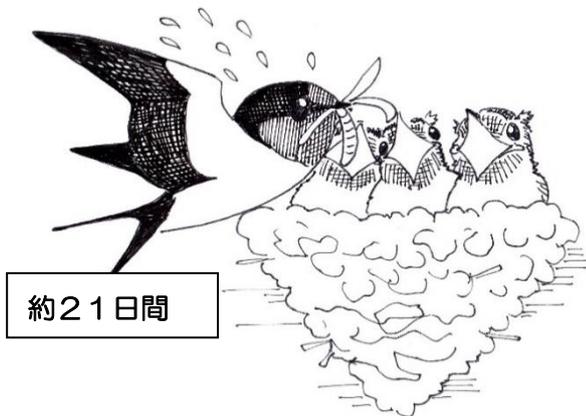
田んぼの泥と枯草を集めて巣作りします。

②抱卵期



3~7個、平均5個産みます。

③育雛期



1日に600回もエサを運びます。

④巣立ち



初めは巣のまわりで過ごし、徐々に行動半径を広げていきます。

2. ツバメの渡り



巣立った若鳥たちと、子育てを終えた親たちは餌の多い山や琵琶湖の周りに移動し、集団を大きくしていきます。夜は湖岸のヨシ原などに集まって寝ます。「集団ねぐら」と言い大きいものは1万羽以上も集まることがあります。

9月に入ると南下し始め、東南アジアの越冬地まで長い旅に出ます。一番遠い越冬地のジャワ島まで距離は6,000kmもあります。

(3) 令和6年度ツバメ調査概要

調査期間 令和6年4月7日～8月31日

市民調査員207名の方々に、それぞれがお好きな場所で調査したツバメについて、調査票に沿って以下の項目について報告いただきました。

【飛んでいるようす】

①最初の発見日時、②発見場所（メッシュコード）、③場所の種類、④ツバメの種類（ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ）、⑤数、⑥気が付いたこと、ツバメのようすなど

最初の発見日時		発見場所			ツバメの種類	数	気が付いたこと、ツバメのようすなど
日付	時刻	住所などできるだけ詳しく	メッシュコード (4ケタ)	場所の種類 (○で囲む)	(○で囲む)		
4/7	午前 5時30分 (午後)	御陵町4 皇子山総合運動公園 駐車場	4618	住宅地・町・公園・田畑・山地 その他 ()	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ	2	2匹連なって、 地面すれすれを飛んでいた。

集計にあたり、報告いただいたツバメの数について、以下のとおり取り扱いました。

(例) 数羽→3羽、複数→3羽、5～10→7羽、5ほど、5近く、5以上、5?→5羽、
たくさん→24羽 (上位10%の平均)、数不記載 (他項目記載あり) →1羽

【巣のようす】

①発見場所（メッシュコード）、②場所の種類、③ツバメの種類（ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ）、④巣の数、⑤巣の状態、⑥観察記録（巣を作り始めた・巣が完成した・ヒナが生まれた・ヒナが飛び始めた・ツバメがいなくなった）、⑦気が付いたこと、巣の様子など

巣の場所			ツバメの種類 (○で囲む)	巣の数	巣の状態 (○で囲む)	観察記録					気が付いたこと、 巣のようすなど
住所などできるだけ詳しく	メッシュコード (4ケタ)	場所の種類 (○で囲む)				巣を作り 始めた	巣が完成 した	ヒナが 生まれた	ヒナが飛 び始めた	ツバメがい なくなった	
御陵町5-1 大津市役所別館軒下	4618	民家・集合住宅・店舗・ ビル・学校・駅・高架 その他 市役所	ツバメ コシアカツバメ イワツバメ	3	新しい巣 元々あった巣	/	/	4/12	5/3	5/16	何年も前からある巣。 5匹のヒナがいた。

集計にあたり、報告いただいたツバメの数について、以下のとおり取り扱いました。

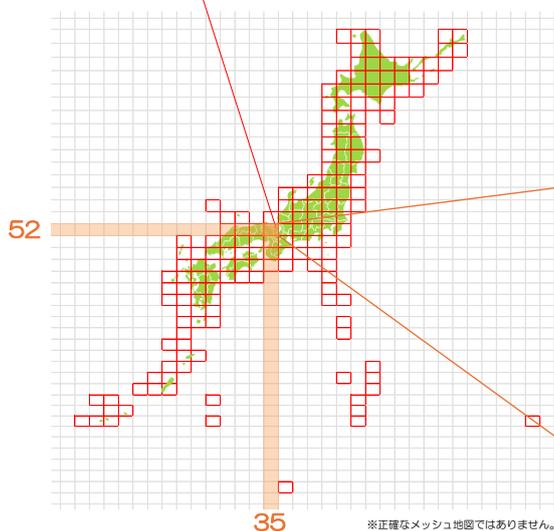
(例) 数個→3個、複数→3個、5～10→7個、5ほど、5近く、5以上、5?→5個、
たくさん→5個 (上位10%の平均)、数不記載 (他項目記載あり) →1個

(4) メッシュコードについて

ツバメ発見場所は、国土地理院国土数値情報「標準地域メッシュ・システム」の3次メッシュコードを記入いただくことによって報告いただきました。地域メッシュ別に情報を表示する方法（メッシュ法）は、統計データの表示をはじめとして、地形、自然環境、行政地域、道路・鉄道、文化財などの位置・範囲を数値化して表示するなど、多方面で利用されています。

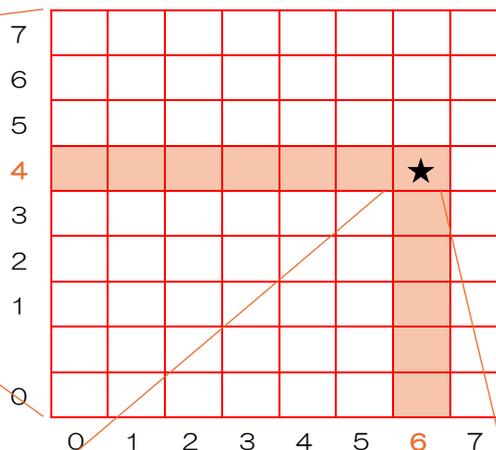
1次メッシュ (約80km×80km)

メッシュコード：5235



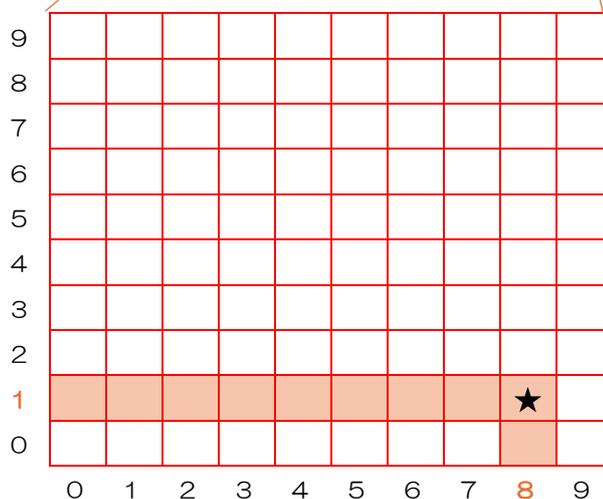
2次メッシュ (約10km×10km)

★のメッシュコード：5235-46



3次メッシュ (約1km×1km)

★のメッシュコード：5235-4618





ていきょう みちか かんきょうしみんちょうさいん
提供：身近な環境市民調査員

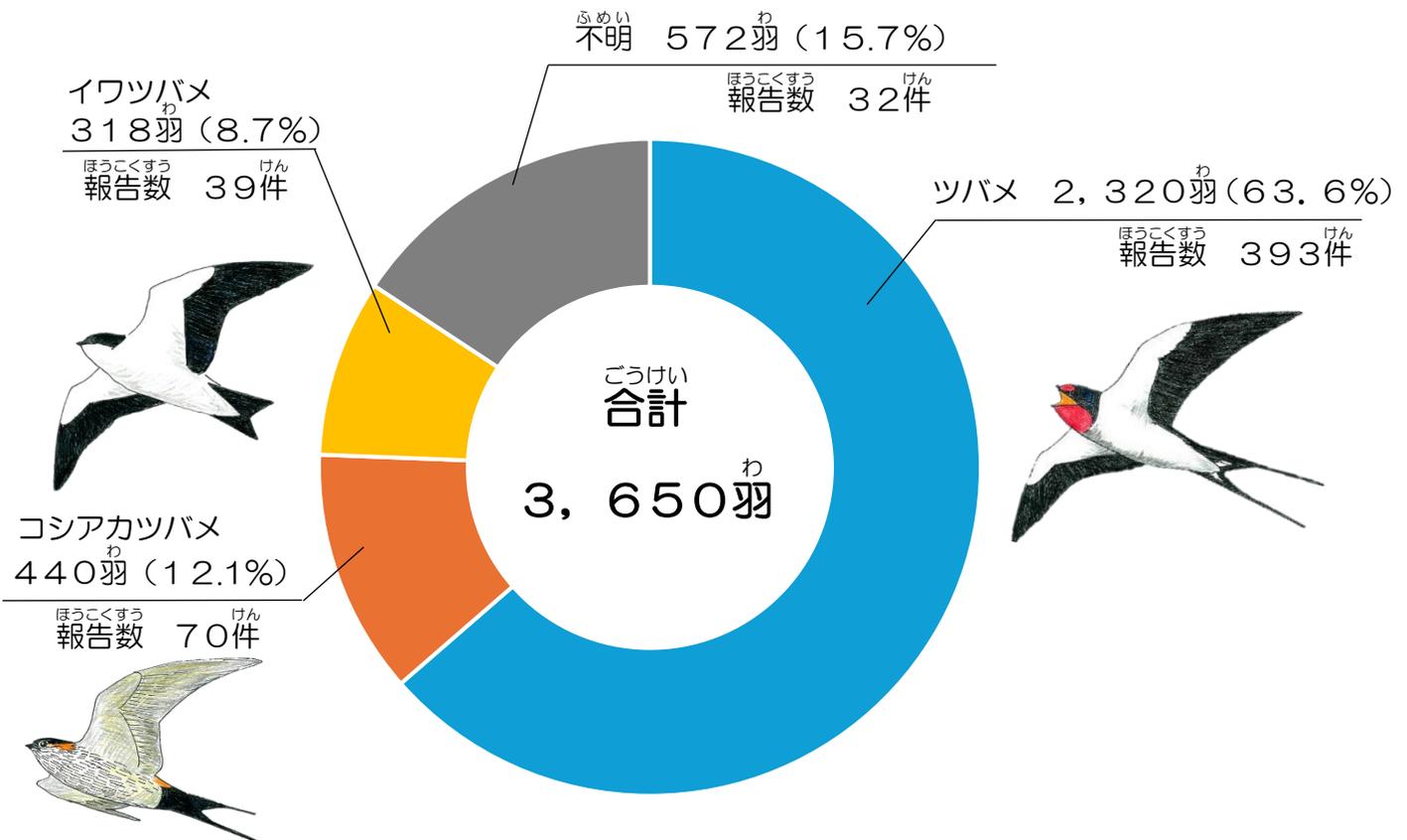
2 調査結果

(1) 報告数

a 飛んでいるようす

飛んでいるようすは延べ534件、3,650羽の報告がありました。種類別にみると最も多かったのがツバメで全体の半数以上を占めていました。次いで、コシアカツバメ、イワツバメが多く報告されました。報告1件当たりの個体数はコシアカツバメが最も多く、その次にイワツバメが多く見られました。巣と比べて差は大きくありませんでした。

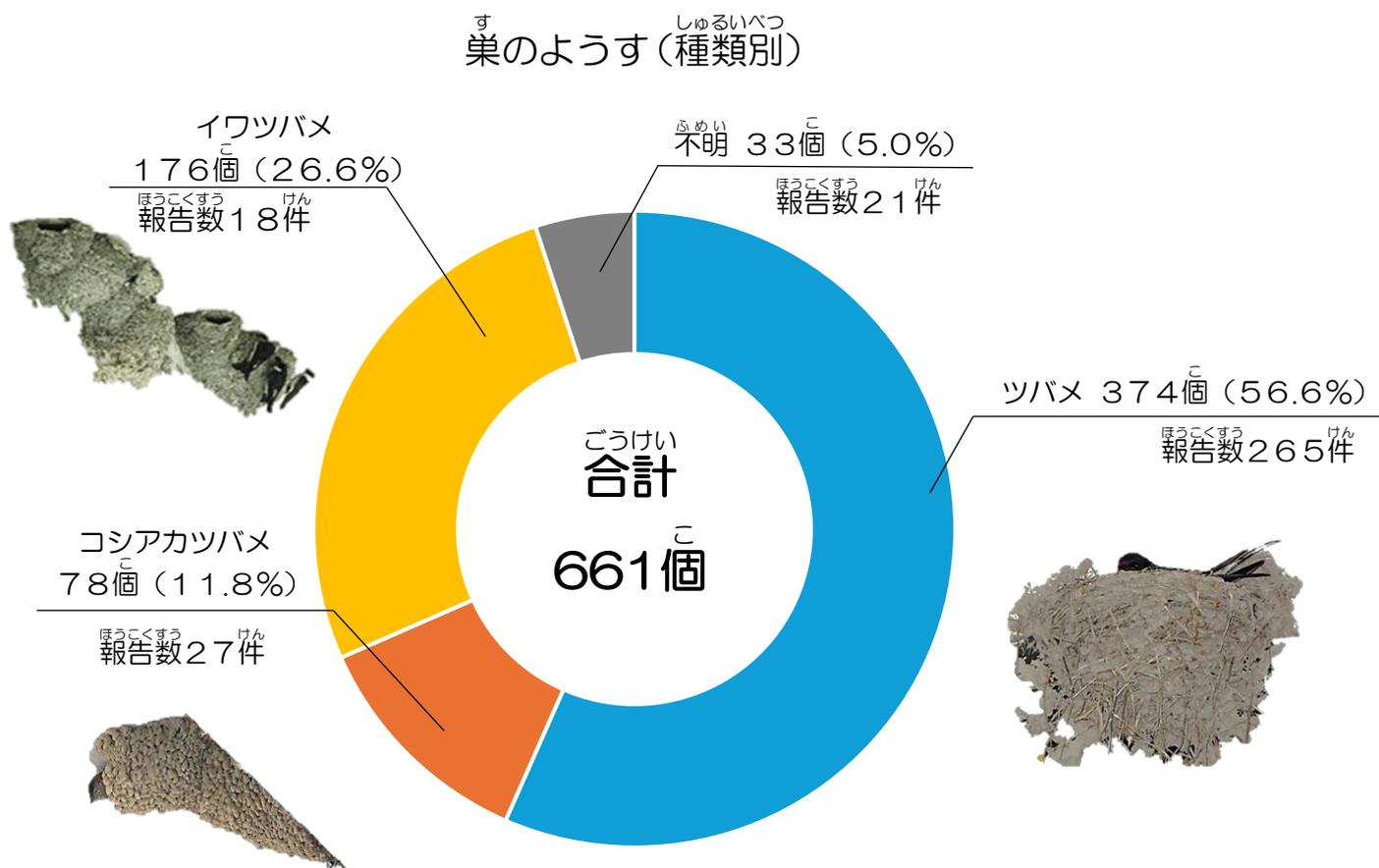
飛んでいるようす（種類別）



種類	報告1件当たりの個体数 (羽)
ツバメ	5.9
コシアカツバメ	6.3
イワツバメ	8.2
不明	17.9

b 巣のようす

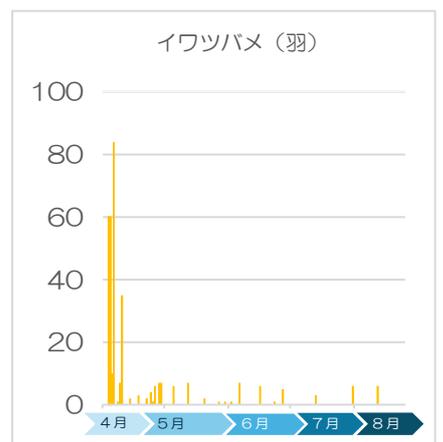
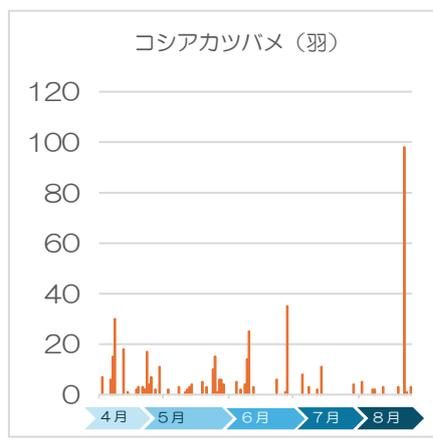
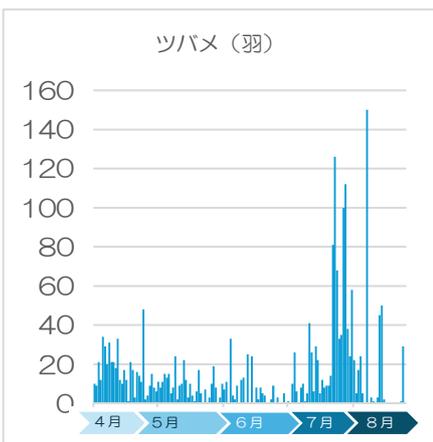
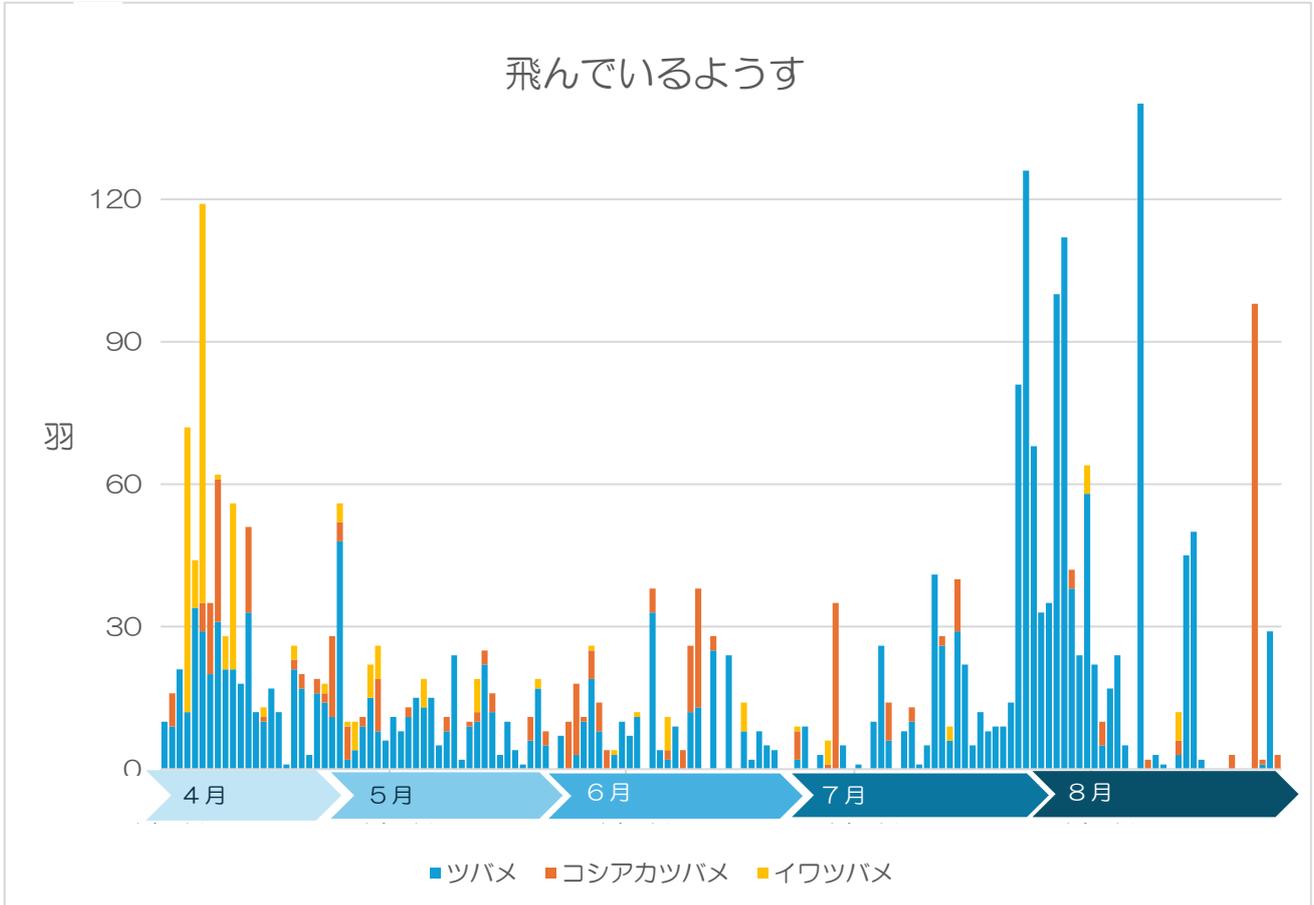
巣のようすは延べ331件、661個が報告されました。巣の個数について最も多かったのは飛んでいるようすと同じくツバメでした。次いで、イワツバメ、コシアカツバメとなりました。飛んでいるようすとは異なり、イワツバメがコシアカツバメを上回りました。報告1件当たりの巣の個数はイワツバメが他よりも多く、集団で営巣するイワツバメの特徴が見られました。



種類	報告1件当たりの巣の個数 (個)
ツバメ	1.4
コシアカツバメ	2.9
イワツバメ	9.8
不明	1.6

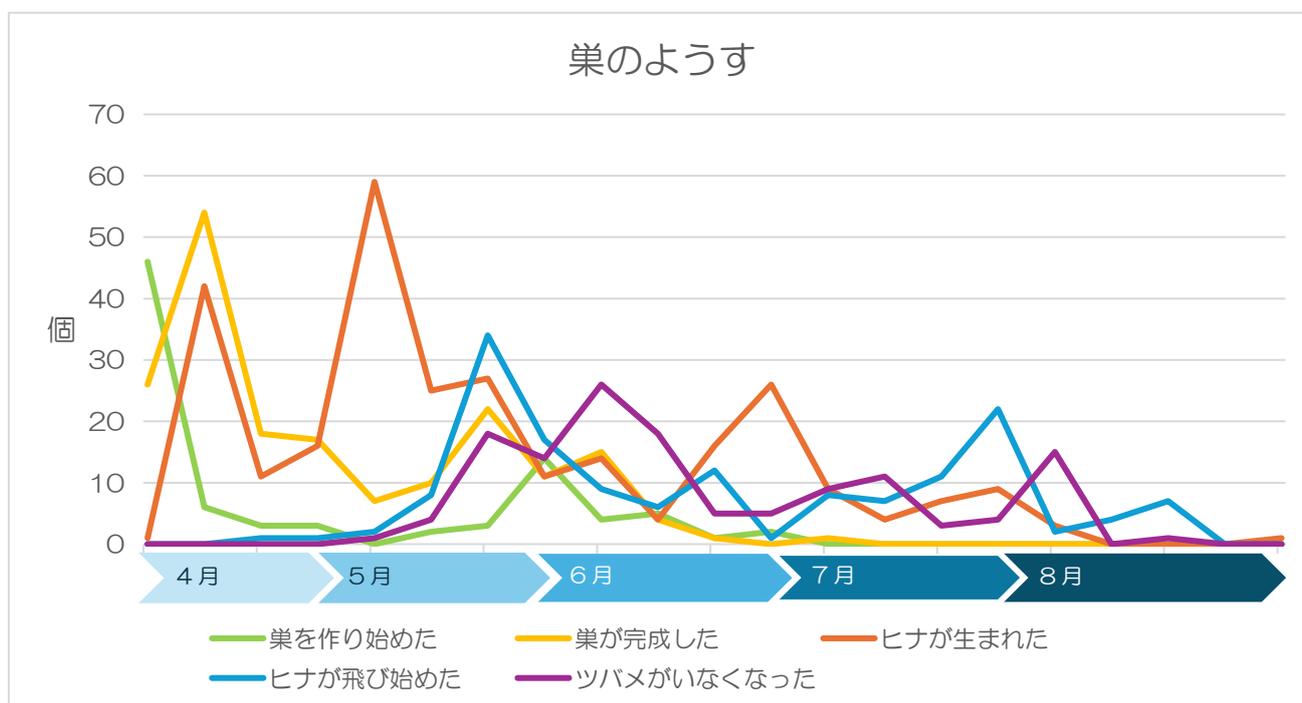
はっけんびへつ
 (2) 発見日別

a 飛んでいるようす



「飛んでいるようす」は長い間見られ、特に4月にはイワツバメが、8月にはツバメとコシアカツバメが多く見られました。

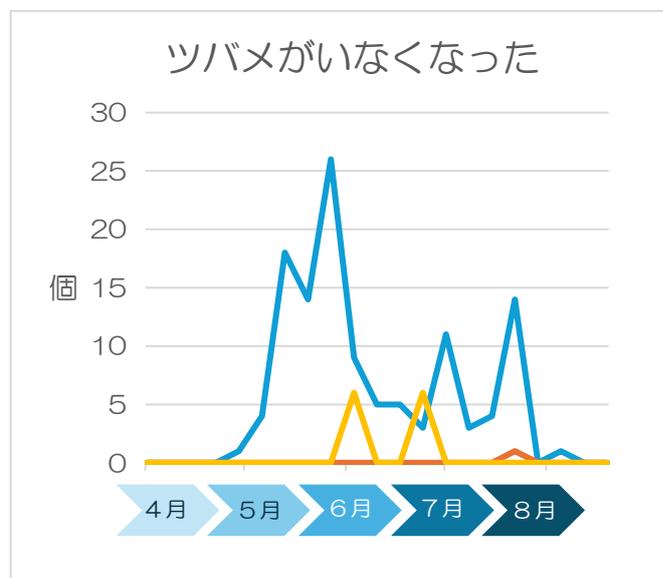
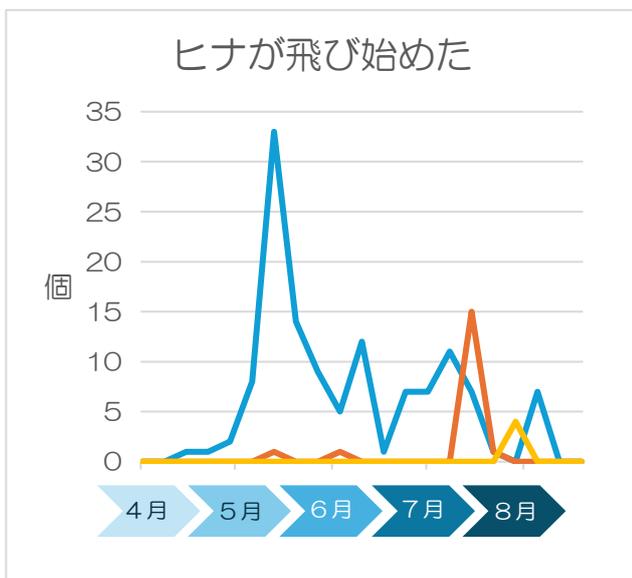
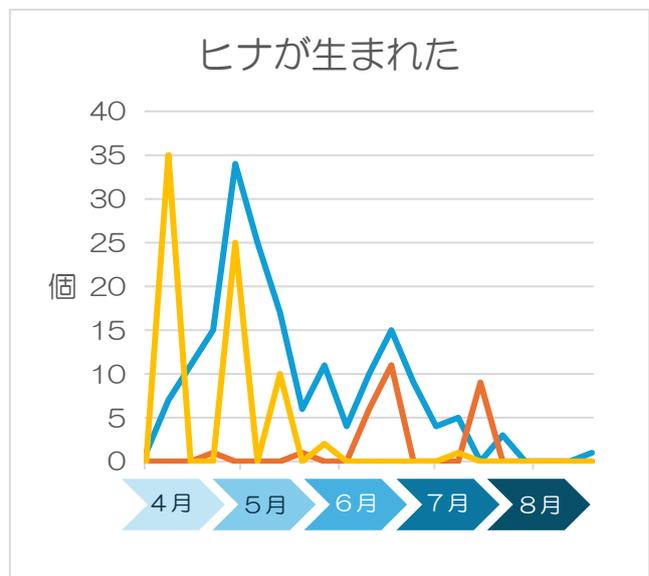
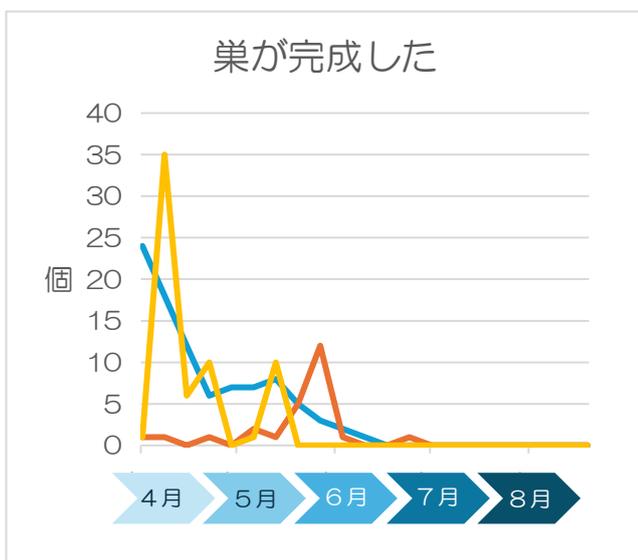
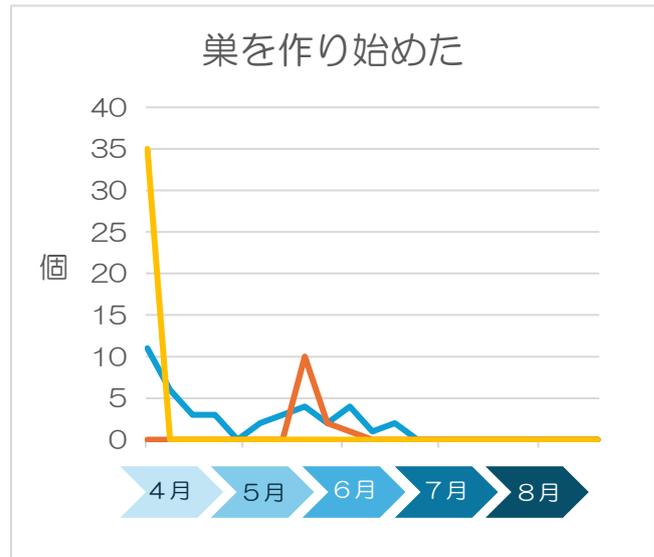
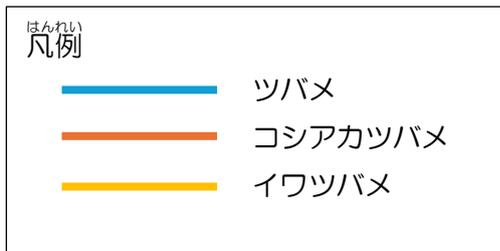
b 巣のようす



巣のようすを時期別グラフにしました。すべての報告の最も多い時期をまとめると以下ようになります。

巣の様子	時期
「巣を作り始めた」	4月上旬
「巣が完成した」	4月中旬
「ヒナが生まれた」	5月中旬
「ヒナが飛び始めた」	5月下旬
「ツバメがいなくなった」	6月上旬

ようす別にグラフにまとめました。
 種類ごとに比較できます。



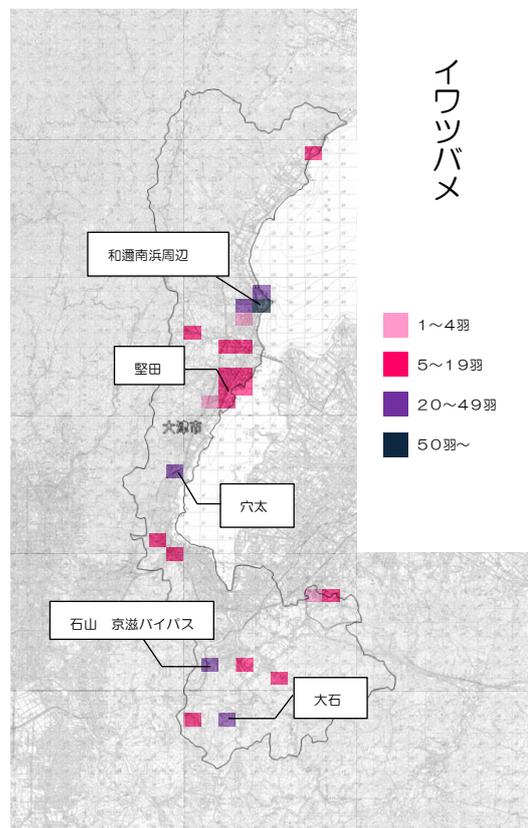
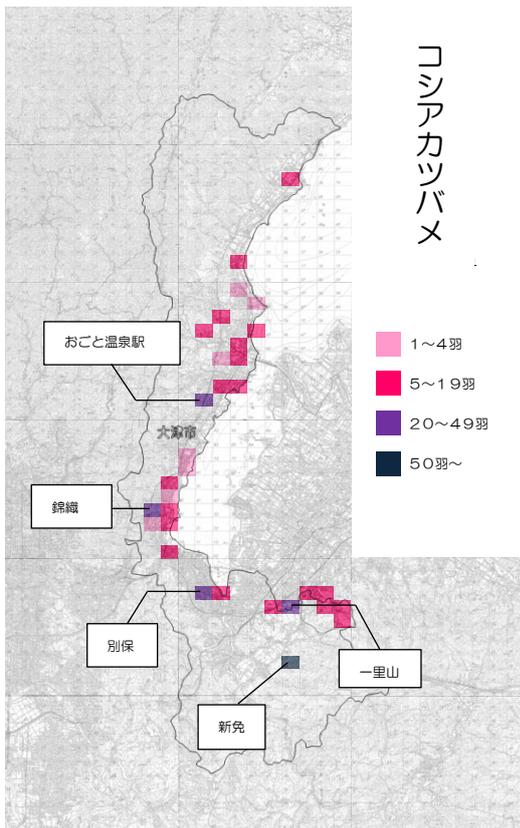
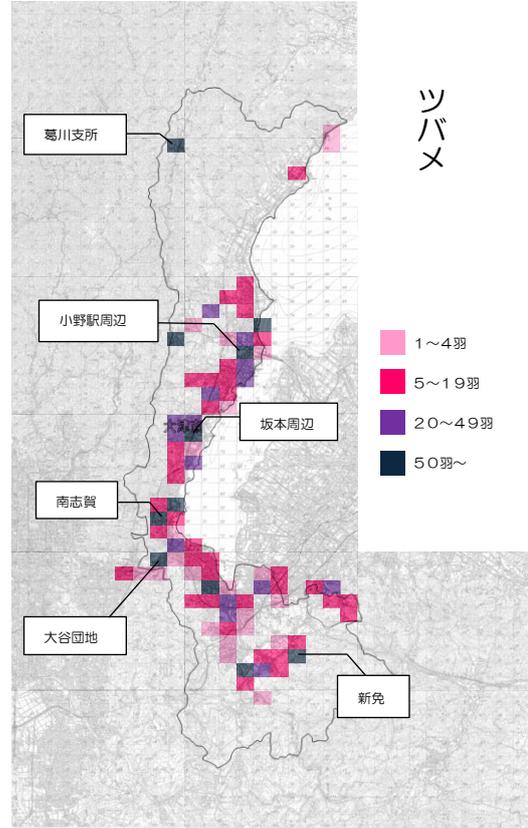
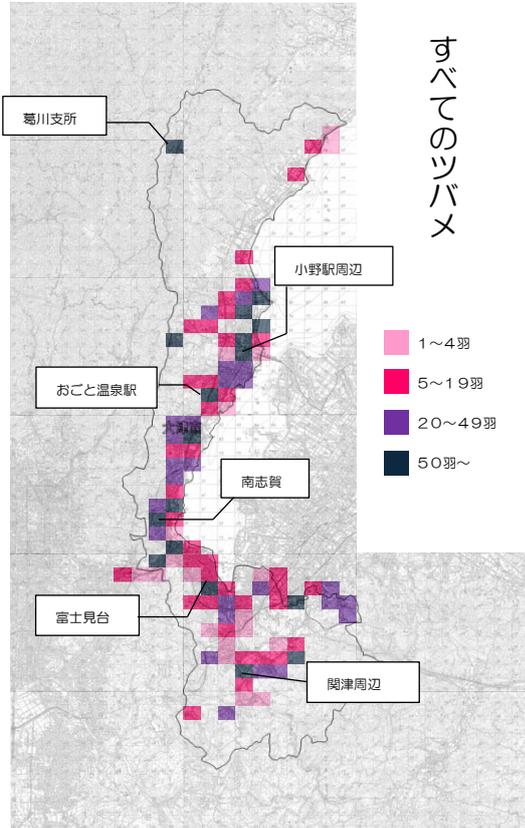


ていきょう みちか かんきょうしみんちょうざいん
提供：身近な環境市民調査員

ちいきべつ (3) 地域別

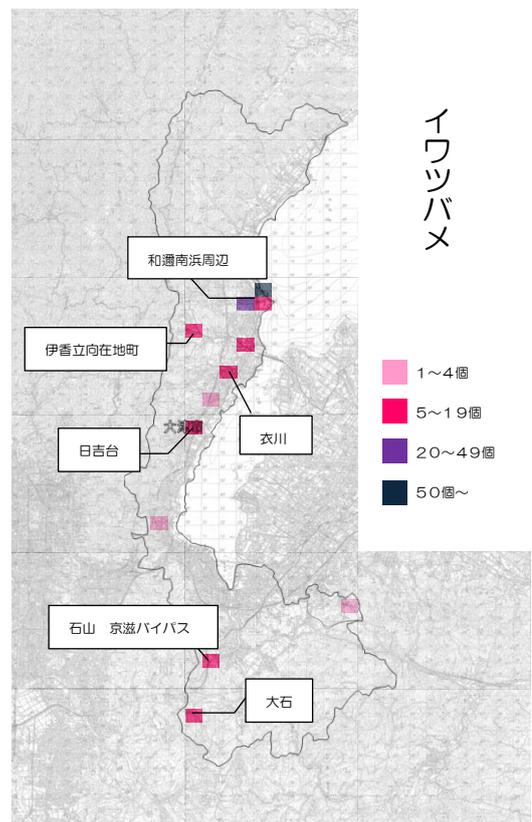
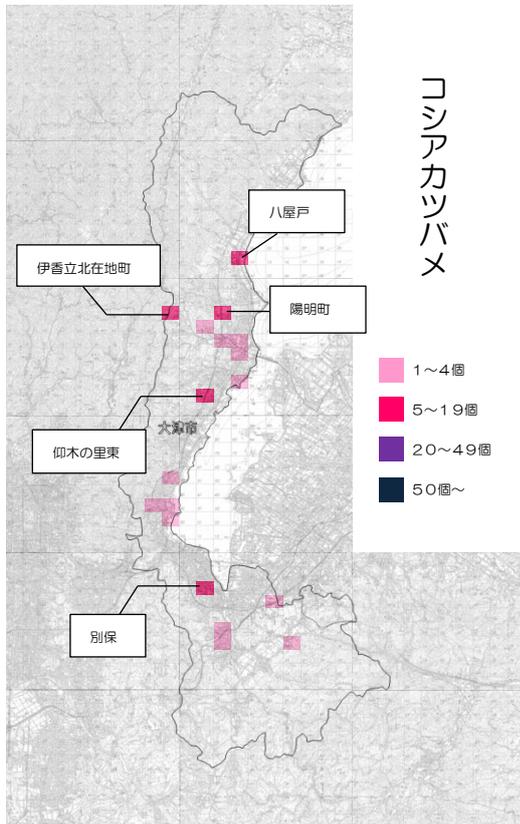
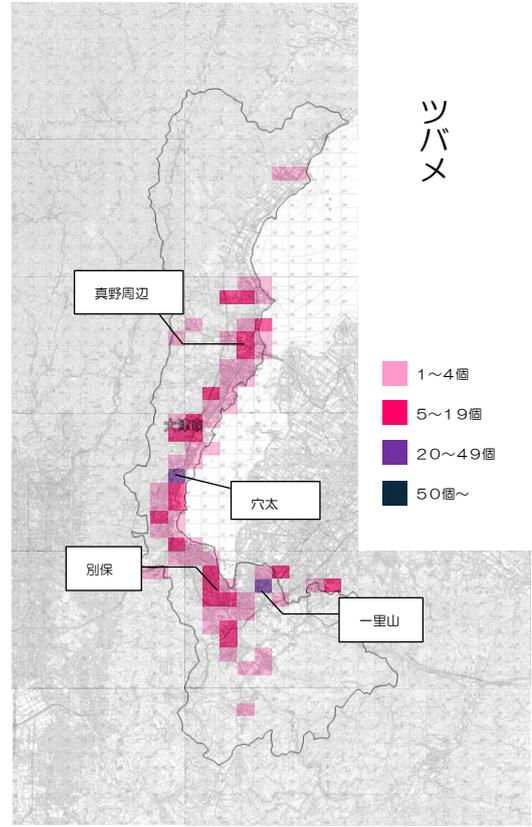
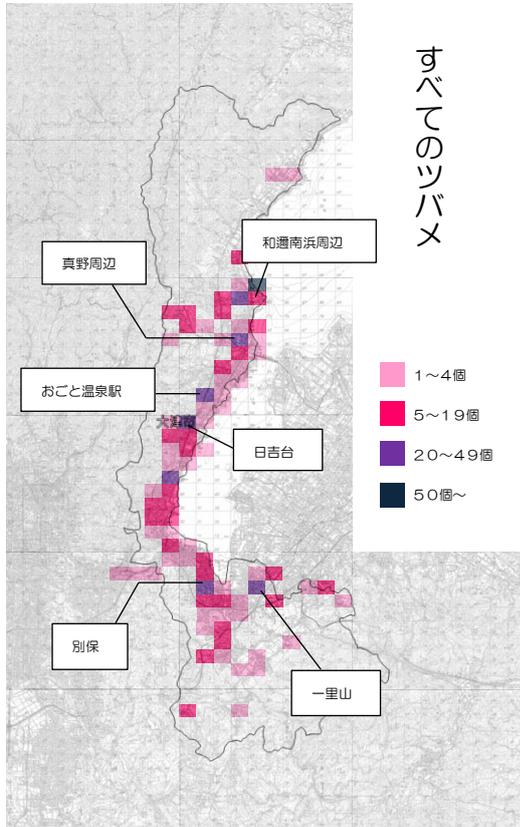
a 飛んでいるようす

とくにおおばしよきさい
特に多かった場所を記載しています。



す 巢のようす

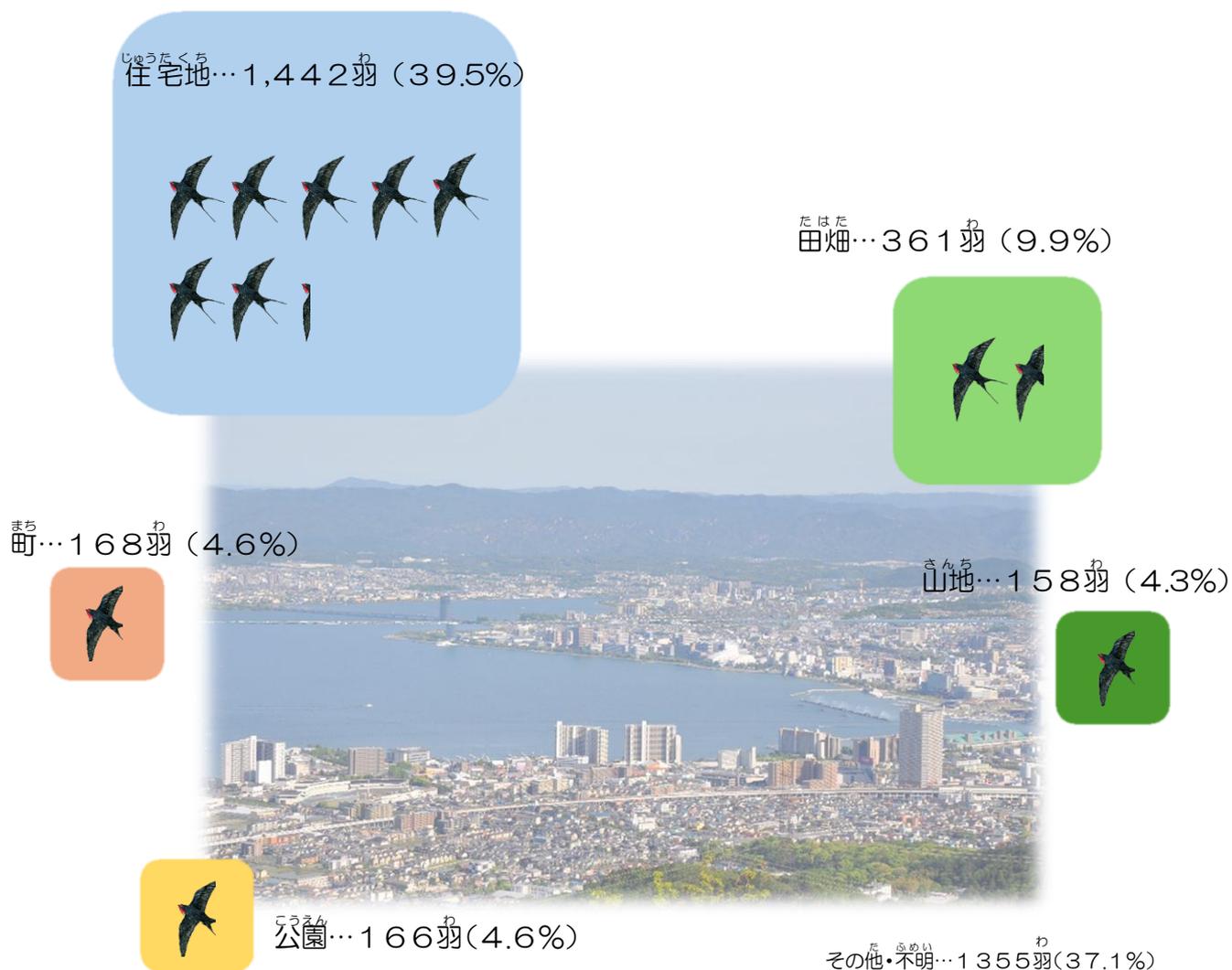
とく おお ぼしよ きさい
特に多かった場所を記載しています。



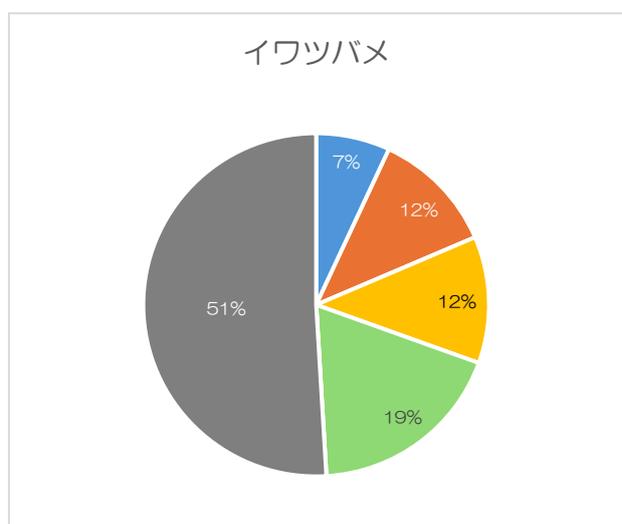
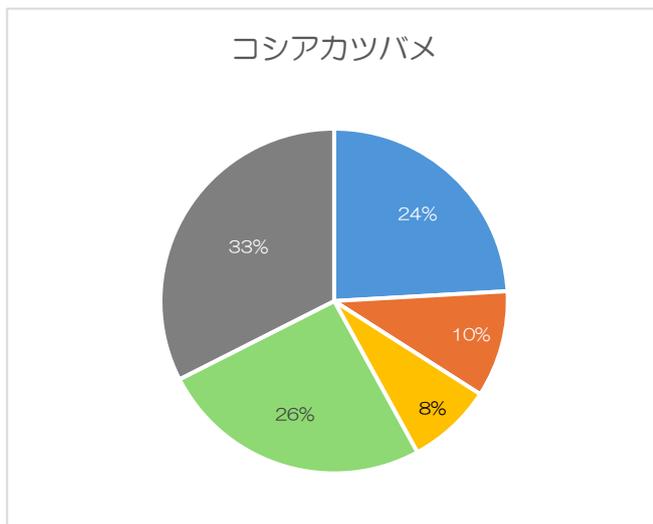
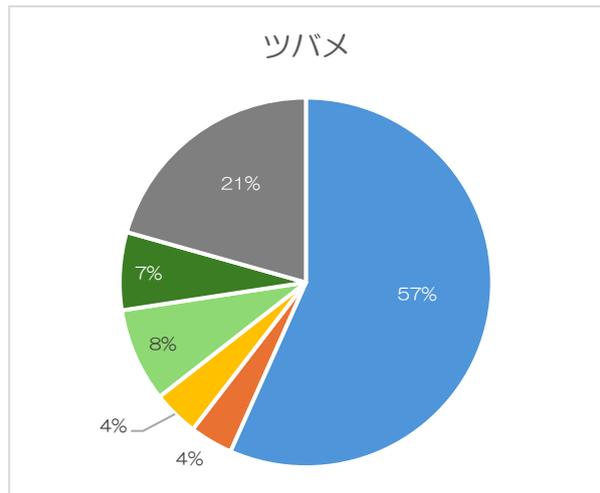
(4) 場所別

a 飛んでいるようす

飛んでいるようすを場所別にまとめました。1羽を200羽としてツバメの場所を可視化しました。



と飛んでいるようすの場所をまとめました。種類ごとに生息場所が異なり、ツバメは50%以上が住宅地で発見され、私たちの生活に近いことがわかりました。イワツバメはその他の割合が多く、駅や高架で飛んでいるようすが見られました。

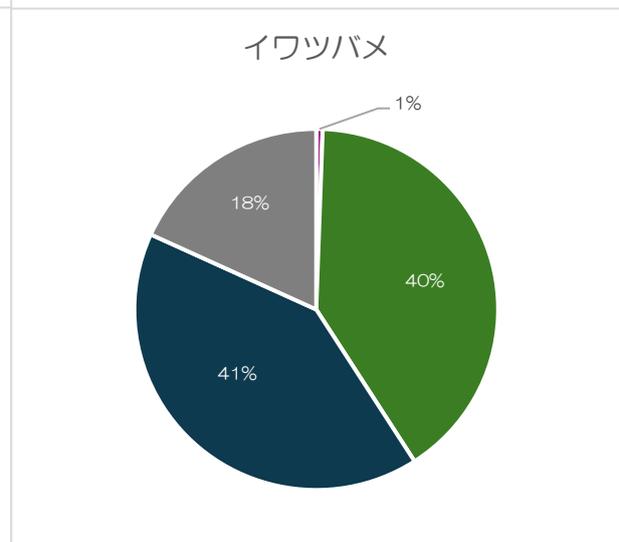
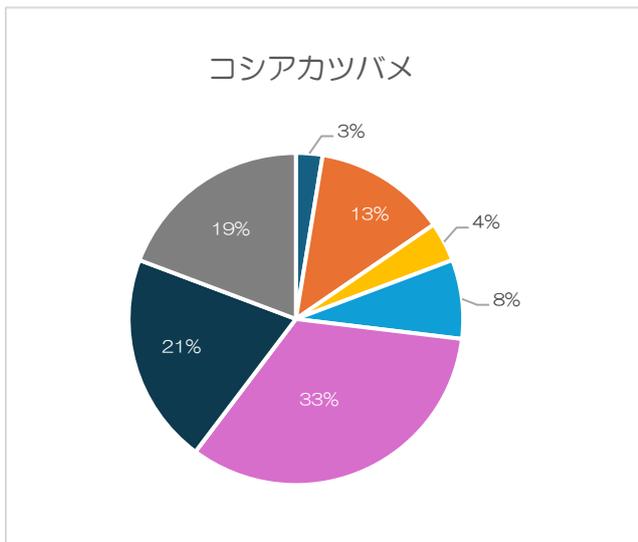
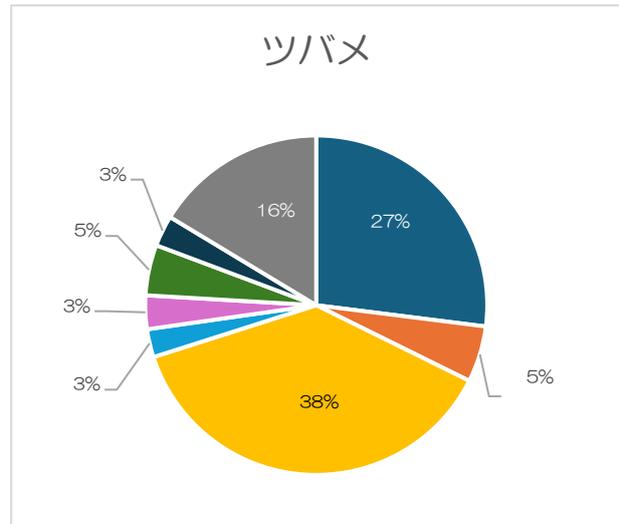


b 巣のようす

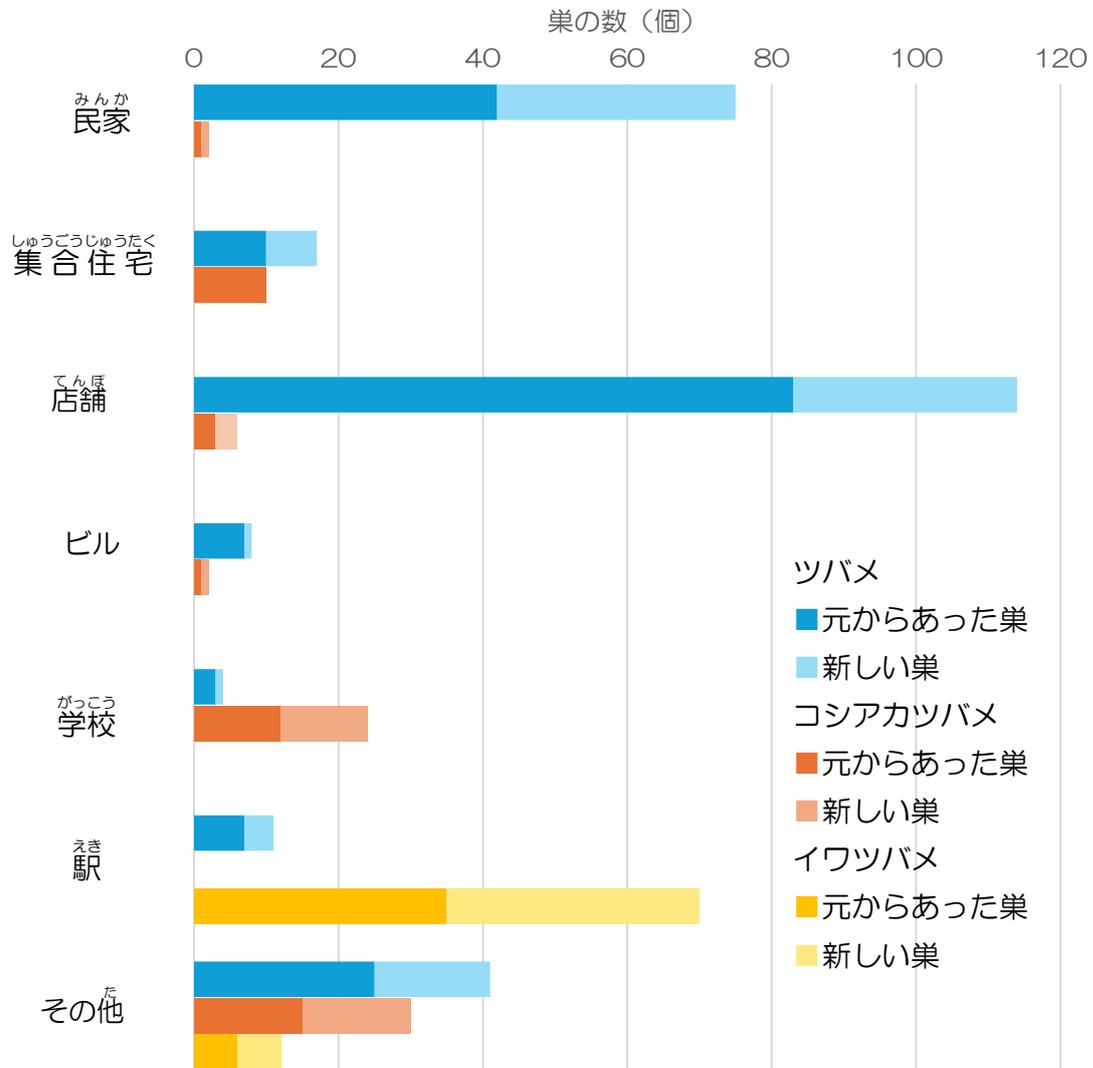
巣のようすを場所別にまとめました。🐦 1つを20個として巣の場所を可視化しました。



種類ごとにまとめました。ツバメは民家・店舗あわせて65%と、人の出入りのある場所を好む性質が表れています。コシアカツバメは学校・高架あわせて42%と大きな建物や橋げたなどに巣を作る性質と一致していました。イワツバメも同様に高架での報告が多くありました。



す ほうこく ばしょ しゆるいべつ もと す あたら す べつ
 巣の報告があった場所をツバメの種類別、「元からあった巣」と「新しい巣」別にまとめました。



もとからあった巣と新しい巣を比較すると「元からあった巣」が多く、人の出入りがある場所に巣を作っていました。ツバメは人々の暮らしと密接に関わっていることがわかりました。

しゅるいべつ
(5) 種類別

a ツバメ



—見た目—

なが つばさ をもち、そとがわがほそなが おぼね
長い翼をもち、外側が細く長くなった尾羽が
とくちょう のど ひたい あか と めだ
特徴。喉と額が赤く飛んでいても目立つ。

—鳴き声—

しな
地鳴き「ツピッ、チピッ」

さえすり「チキュチキュチキュチーキュジー」

—エサ—

ひしょうこんちゅう
飛翔昆虫

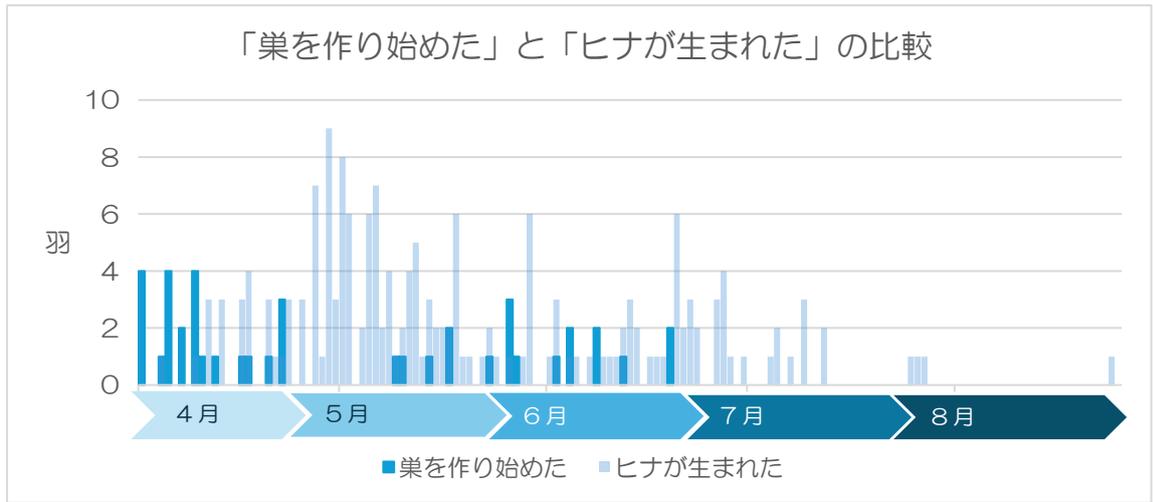
巣を作り始めた



巣が完成した



「巣を作り始めた時期」が調査開始の4月7日から横ばいで、その後減少していることと、4月11日が「巣が完成した時期」のピークであることから、「巣を作り始めた時期」は4月7日より早いことが考えられます。

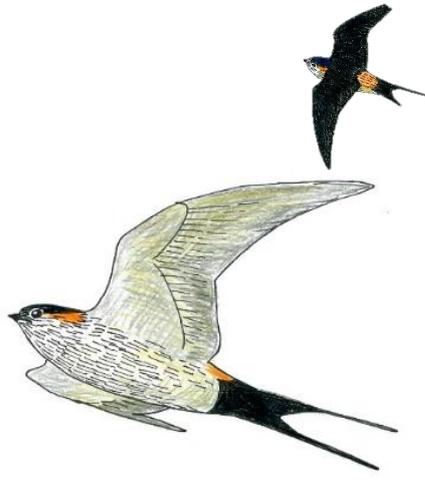


5月 月上旬 は「巣を作り始めた時期」の報告がありませんでした。「ヒナが生まれた時期」と比較するとヒナが生まれた時期のピークであることがわかりました。



提供：ていきょう みちか かんきょうしみんちょうさいん
 提供：身近な環境市民調査員

b コシアカツバメ



—見た目—

ツバメよりひとまわり大きく、腰が赤茶色であるのが特徴。尾羽はツバメより長く、スマートに見える。

ツバメより約1ヶ月遅い4月中旬ごろに現れる。

—鳴き声—

地鳴き「ジュピ、ヴィ」（ツバメより低い声）

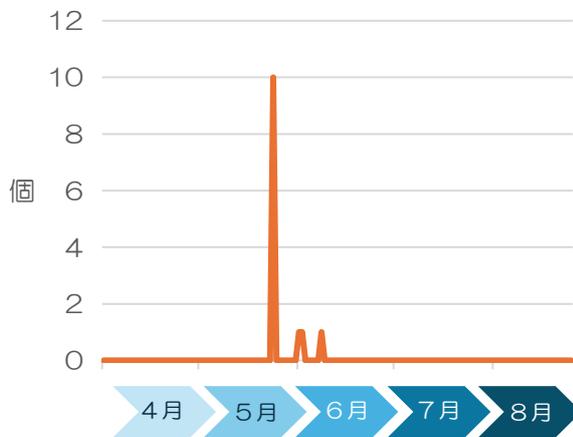
さえすり

「ジュリジュリチュルルルジュリジュリリリリリ・・・」

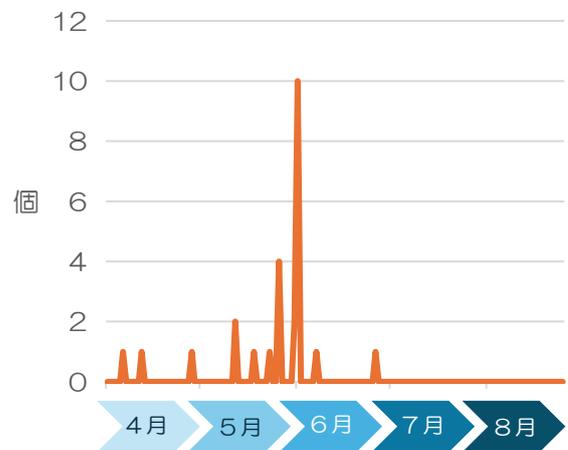
—エサ—

ひょうこんちゅう
飛翔昆虫

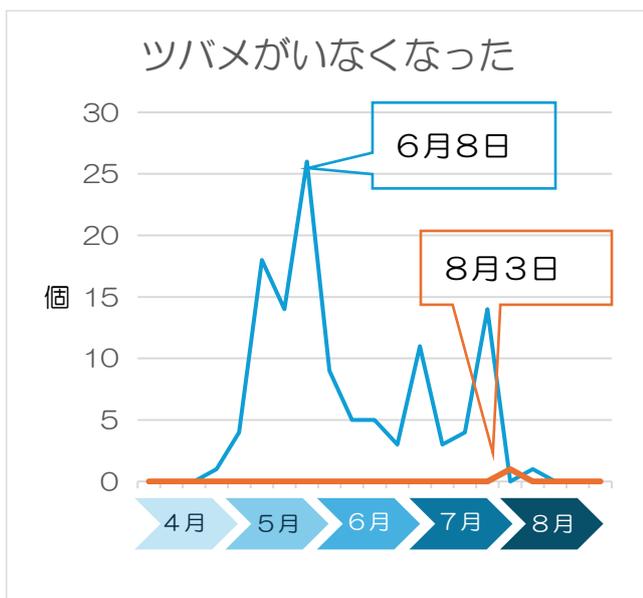
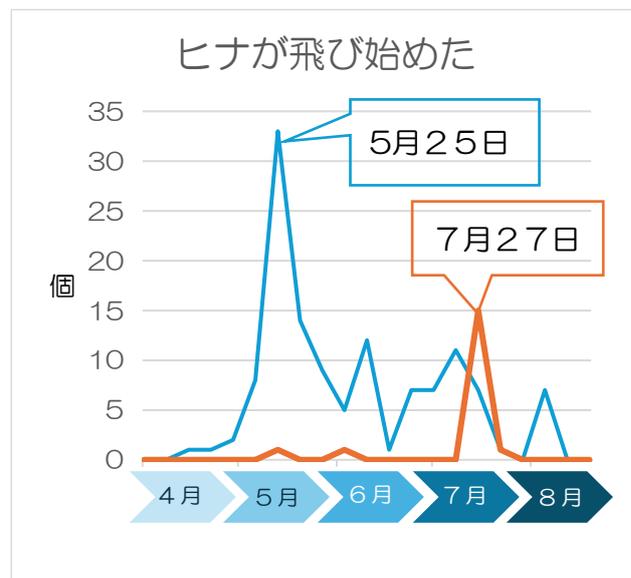
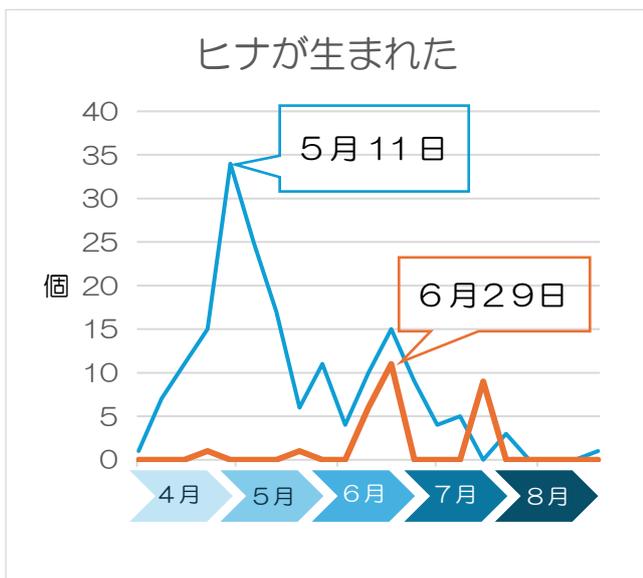
巣を作り始めた



巣が完成した

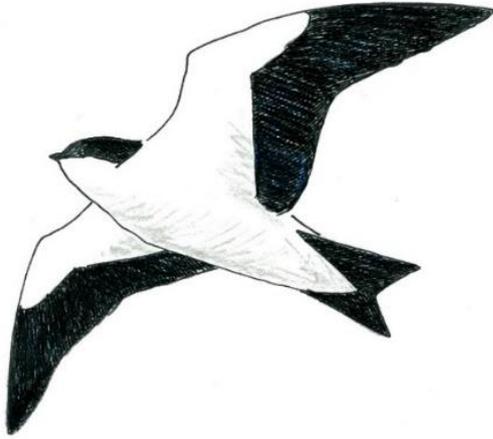


合計すると「巣を作り始めた」個数より「巣が完成した」個数が多くなりました。報告からコシアカツバメは巣を修復して作る場合が多く、巣を作り始めた時期が分かりにくかったのではないかと考えられます。



コシアカツバメはツバメより 1 ヶ月程遅れて飛来します。ツバメの「巣を作り始めた」、「巣が完成した」時期が調査期間の4月7日より早いことが考えられることから、報告を基に「ヒナが生まれた」、「ヒナが飛び始めた」、「ツバメがいなくなった」の最も多い週を比較すると大津市では1ヶ月~2ヶ月時期が違うことがわかりました。

c イワツバメ



—見た目—

ツバメよりひとまわりちい小さく、こし腰がしろいろ白色であるのが特徴。おばね尾羽は浅いV字型で広げると切れ込みがないように見える。こうくう高空を飛んでいることが多く、おお飛び方もと素早い。
す巣にはがつげしゅん3月下旬にあらわ現れる。

—鳴き声—

「ジュリリリリ、チュビ、ヴィジュルルル」
 さえずり き決まったさえずりはない。

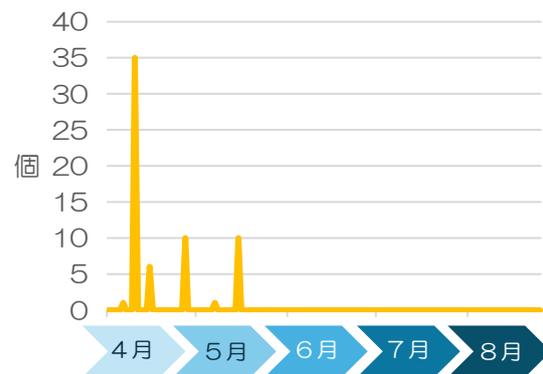
—エサ—

ひしょうこんちゅう飛翔昆虫

巣を作り始めた



巣が完成した



ヒナが生まれた



「す巣を作りはじ始めた」、「す巣がかんせい完成した」、「うヒナがう生まれた」から調査期間の初めにピークの時期が重なっています。ツバメより飛来が早いため、調査期間よりも早く活動を始めていたことが考えられます。

3 平成5年度、平成28年度及び令和6年度の比較

(1) 各年度の調査について

平成5年度調査について

① 調査期間

平成5年 4月～8月

② 調査対象地域

大津市域の全域

※ただし、志賀町との合併前であるため、同町域（小松・木戸・和邇・小野の4学区）は含まれていません。また、真野北・仰木の里・青山の3学区についても分立前であり同様です。

③ 調査するツバメの種類

ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの3種類

④ 調査方法

本年度と同じく、市民調査員の方に調査票に基づいてツバメの観察をしていただき、調査票を提出していただきました。

平成5年度は「飛んでいる様子」の調査票がないため、差異が生じています。

平成28年度調査について

(1) 調査期間

平成28年4月16日～平成28年8月31日

(2) 調査対象地域

大津市内全域

(3) 調査するツバメの種類

ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの3種類

(4) 調査方法

市民調査員の方に調査票に基づいてツバメの観察をしていただき、調査票を提出していただきました。

(2) 飛んでいるようすの比較

－平成28年度の記述（一部改変）－

ツバメの報告件数、個体数ともに平成5年度の約3倍でした。

コシアカツバメの報告件数は平成5年度の約3倍、個体数は横ばいでした。

イワツバメの報告は平成5年度はありませんでしたが、平成28年度は133羽報告されました。

1990年代から滋賀でも橋梁で繁殖するようになったため（植田先生の図鑑より）、橋梁での繁殖が定着し、巣とともに飛んでいるようすが見られるようになったことが考えられます。

年度	平成5年度				平成28年度			
	報告件数(構成比)		報告個体数(構成比)		報告件数(構成比)		報告個体数(構成比)	
ツバメ	231	95.9%	1,022	92.1%	675	93.1%	2,829	92.8%
コシアカツバメ	10	4.1%	88	7.9%	28	3.9%	83	2.7%
イワツバメ	0	0.0%	0	0.0%	17	2.3%	133	4.4%
不明	0	0.0%	0	0.0%	5	0.7%	4	0.1%
合計	241		1,110		725		3,049	

令和6年度考察

令和6年度の報告件数は平成28年度に比べ少ないですが、報告個体数は平成5年度、平成28年度、令和6年度の中で最も多くなりました。平成28年度と比べるとツバメは減少していますが、83羽だったコシアカツバメが440羽、133羽だったイワツバメが318羽とどちらも大幅に増加しています。

年度	令和6年度			
	報告件数(構成比)		報告個体数(構成比)	
ツバメ	393	73.6%	2,320	63.4%
コシアカツバメ	70	13.1%	440	12.1%
イワツバメ	39	7.3%	318	8.7%
不明	32	6.0%	572	15.7%
合計	534		3,650	

(3) 巣のようすの比較

－平成28年度の記述（一部改変）－

ツバメは、報告件数、巣の個数ともに平成5年度の約2倍でした。

平成5年度のコシアカツバメの巣の個数は確認できませんでしたが、報告件数が10件でしたので少なくとも10個は巣があるということで10個としております。

イワツバメについては、平成5年度は報告がありませんでしたが、平成28年度では26件、127個もの巣が報告されました。1990年代から滋賀でも橋梁で繁殖するようになったため（植田先生の図鑑より）、橋梁での繁殖が定着しつつある可能性が考えられます。

年度	平成5年度				平成28年度			
	報告件数（構成比）		巣の個数（構成比）		報告件数（構成比）		巣の個数（構成比）	
ツバメ	327	97.0%	615	98.4%	768	91.0%	1189	82.1%
コシアカツバメ	10	3.0%	10	1.6%	44	5.2%	130	9.0%
イワツバメ	0	0.0%	0	0.0%	26	3.1%	127	8.8%
不明	0	0.0%	0	0.0%	6	0.7%	3	0.2%
合計	337		625		844		1449	

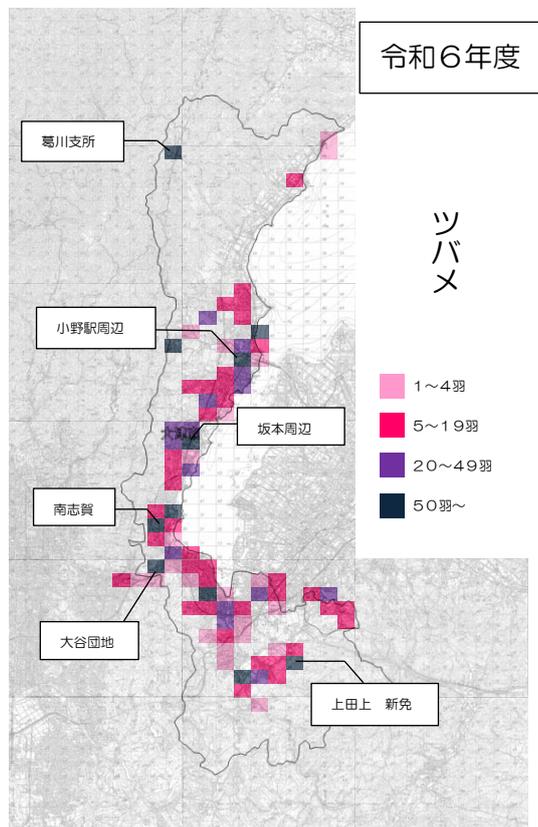
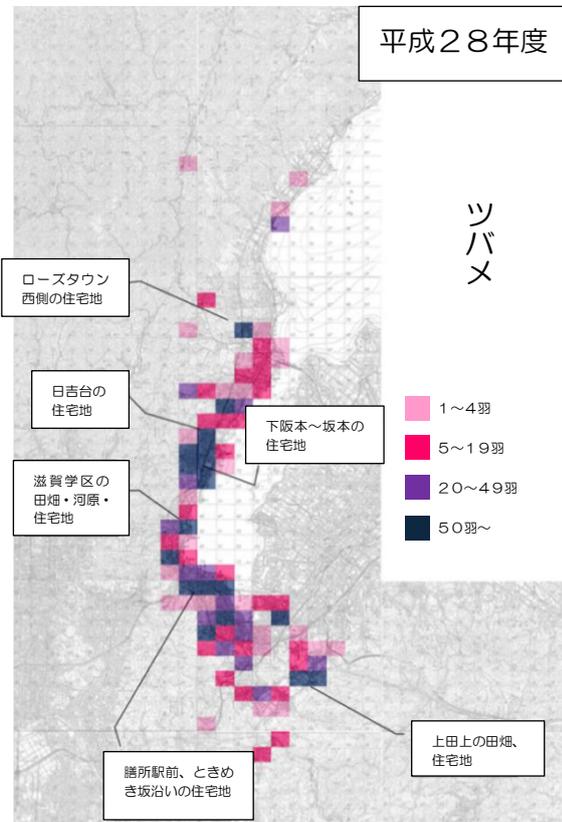
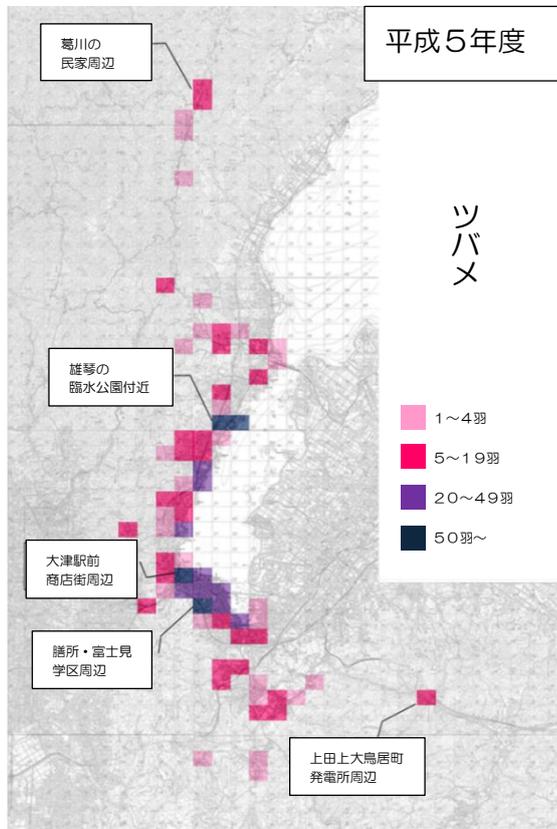
令和6年度考察

報告数は平成28年度よりも減少し、平成5年度と同じぐらいの報告数でした。令和6年度は平成5年度及び平成28年度と比較すると報告件数、報告個数ともにコシアカツバメとイワツバメの割合が増加しました。イワツバメについては8.8%から約12%に増加していることから、より橋梁での繁殖が定着したのではないかと考えられます。

年度	令和6年度			
	報告件数（構成比）		巣の個数（構成比）	
ツバメ	265	80.0%	374	56.6%
コシアカツバメ	27	8.2%	176	26.6%
イワツバメ	18	5.4%	78	11.8%
不明	21	6.3%	33	5.0%
合計	331		661	

(4) 【ツバメ限定】地域別 ※平成5年度のコシアカツバメ・イワツバメの記録がないためツバメの比較のみ

a 飛んでいるようす



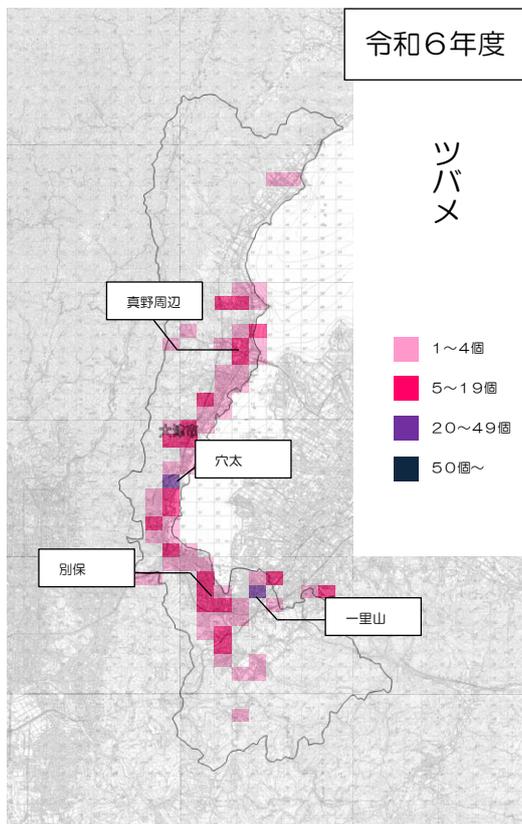
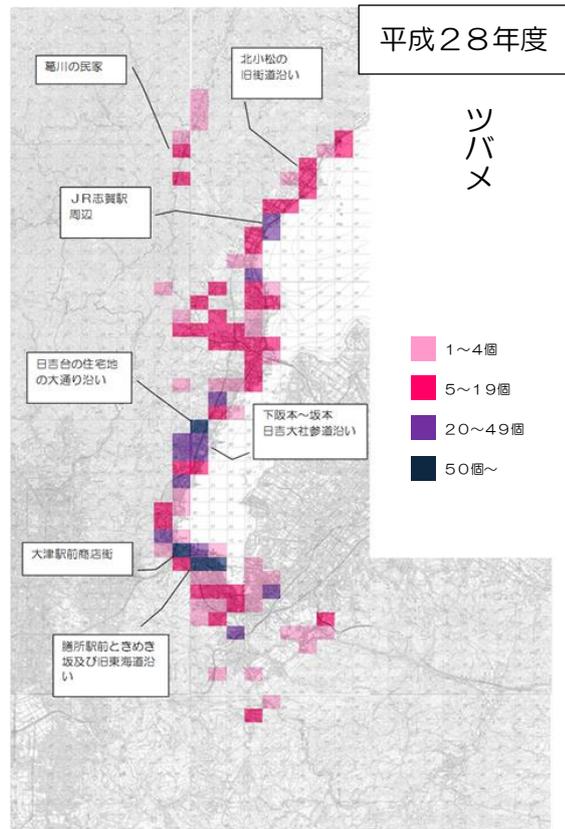
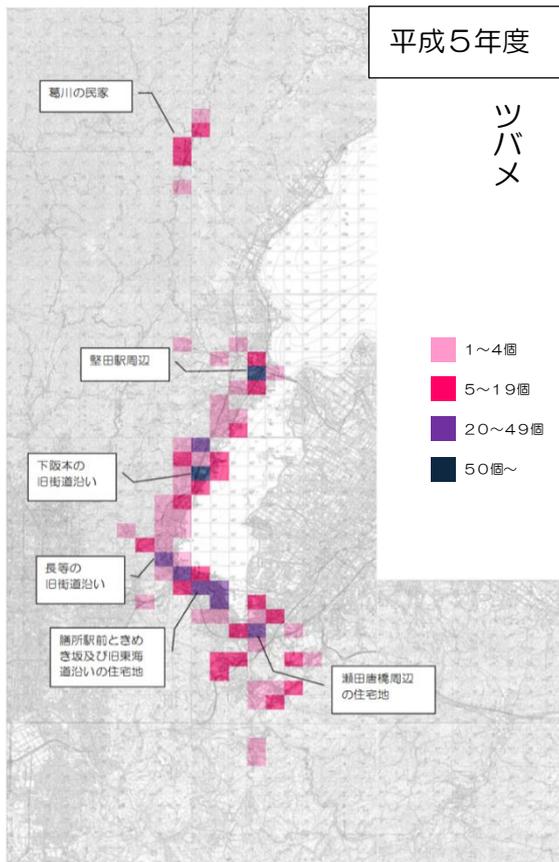
—平成28年度の記述—

平成5年度よりも平成28年度のほうが広い範囲で飛んでいるツバメの報告がありました。巣のようすと同様に、坂本方面や大津駅から膳所駅周辺がより色濃く表示されています。また、ローズタウン周辺や日吉台の住宅地など、開発でできた住宅地にもツバメが多く飛ぶようになったことがわかりました。

令和6年度考察

平成5年度、平成28年度と比べると堅田辺りで飛翔数が増加し、膳所あたりの飛翔数は減少しているように見えます。

b 巣のようす



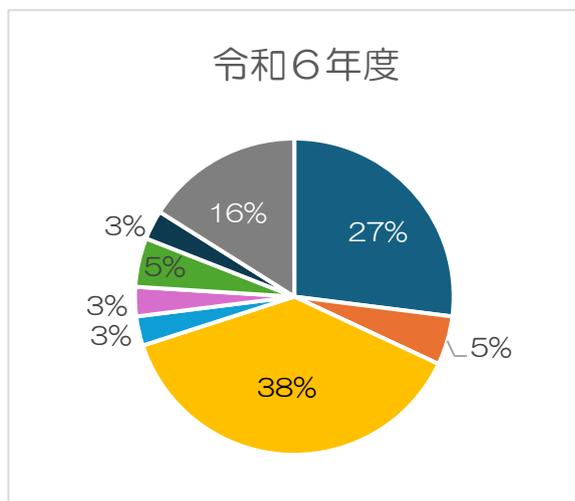
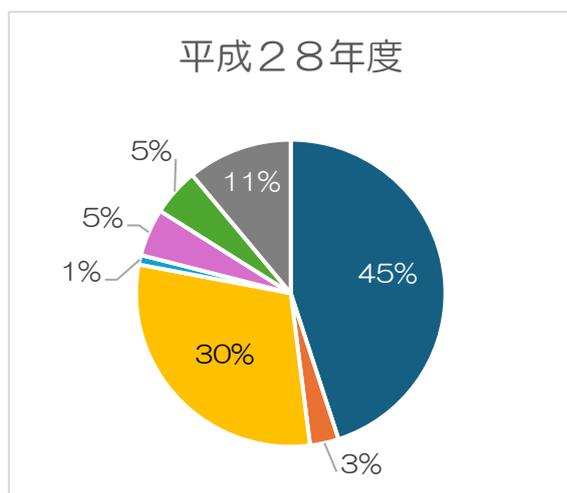
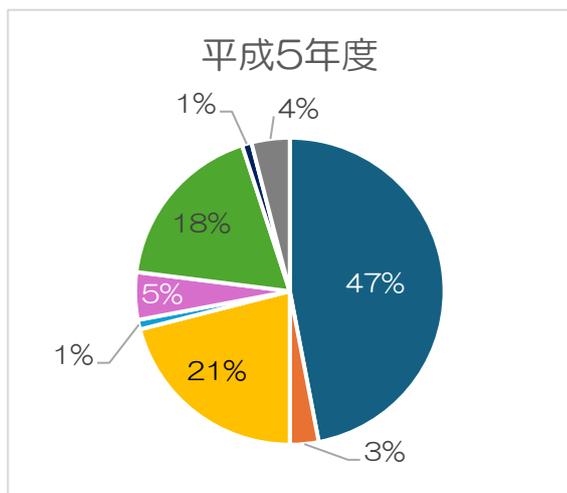
—平成28年度の記述—

平成5年度、平成28年度ともに広い範囲でツバメの巣の報告がありました。今回は坂本方面や大津駅から膳所駅周辺がより色濃く表示されています。また、琵琶湖大橋周辺から伊香立あたりまでの報告も多く見られました。

令和6年度考察

平成5年度と令和6年度を比較すると数が多い部分が少なくなっているように感じます。平成28年度と令和6年度を比較するとツバメの報告があった範囲が小さくなっていますが、平成28年度は報告件数、報告個数ともに2倍以上あったため、一概に分布範囲が減少したとは言えません。

(5) 【ツバメ限定】 場所別



凡例

- 民家
- 集合住宅
- 店舗
- ビル
- 学校
- 駅
- 橋、高架
- その他

ー平成28年度の記述ー

ツバメが巣を作っていた環境は、平成5年度、平成28年度ともに傾向はほぼ同様でした。平成5年度の駅18%は、堅田駅に巣が100個あったという報告によるものです。

令和6年度考察

平成5年度と平成28年度は民家が50%近くを占めていたのに対し、令和6年度は民家が27%になりました。令和6年度では店舗が38%に増加しました。報告から民家の巣は撤去される場合があることがわかりました。このようなことから店舗の報告が多くなったのではないかと考えられます。

4 ちょうさ ぶん かえ 調査を振り返って

「ツバメ調査」を振り返って

こほくやちよう しょちょう うえだ じゆん
湖北野鳥センター 所長 植田 潤

へいせい ねん 3 ども ちょうさ どうこう し わたし みの
平成5年から 3度目となったこの調査は、ツバメたちの動向を知るだけでなく、私 たちの身の
まわ しぜんかんきょう へんか よ と ひじょう じゅうよう おも
回りの自然環境の変化を読み取ることができる非常に重要なものであると思います。なぜなら、
ツバメは古来から人間とともに暮らし、我々の生活に深く結びついて来た生き物であると言えるか
らです。

こんかい けっか もっと ちゅうもく てん す かす げんしょう へいせい ねん へいせい ねん くら
今回の結果で最も注目すべき点は、ツバメの巣の数の減少です。平成28年は平成5年に比べ、
ちょうさいん こうじょう こうが ほうこくこすう そうか かんが こんねんど ほうこく
調査員のスキル向上の効果もあって報告個数が増加したと考えられます。それが、今年度では報告
こすう 1/3 にまで減少しています。見られなかったという報告をカウントしているかどうかはわか
りませんが、ぶんぷず をみると高密度で見られていた地域の減少が確実であるため、こたいすうぜんたい
げんしょうけいこう であると思われま。へいせい ねん ちょうさじ ぜんこくてき げんしょうけいこう ちんたいし
減少傾向であると思われま。平成28年度の調査時も、全国的なツバメの減少傾向は問題視され
ており、こんかい ちょうさけっか よ と げんしょうけいこう しんこう すいさつ
今回の調査結果を読み取るに、減少傾向はさらに進行しているのではないかと推察します。
ほか しゆ かい ちょうさけっか ねんねんそうか あき とく
他の2種は3回の調査結果から年々増加していることが明らかになっています。特にコシアカツ
バメはほんねんどこたいすう ばい こ こたいすう げきぞう す かす
バメは本年度個体数で5倍を超える個体数で、激増していることがうかがえます。ただ、巣の数に
ついてはイワツバメでほうこくこすう へ じゆんすい こたいすう そうか み はんたん
についてはイワツバメで報告数が減っており、純粋に個体数の増加と見るかどうかの判断が
むずか
難しそうです。

今回の調査で行動の報告があったものを日ごとで見たものがありましたが、イワツバメが早春早く渡って来てツバメ、コシアカツバメと渡来日が増えることや、どの種類も繁殖のピークが2～3回見られることなど生態に関する記録も非常に興味深いものとなりました。同じペアが連続して繁殖しているかどうかはわかりませんが、ツバメ類の繁殖生態の記録としては重要です。また、コシアカツバメは秋遅くまで滋賀県内に滞在する傾向にあり、今回の調査結果でも8月末の記録数でそのことが現れています。

前述でも書いている通り、ツバメ類は我々の身近な自然に密接に関わっているので、定期的にモニタリングすることで、自然環境の豊かさを知るバロメーターになるとおもわれます。ツバメの減少傾向については、全国的な傾向にあるので大津市だけではないものの、今後の動向を見守るべき結果だと考えられます。

調査員の皆様からの感想

お配りしたアンケートにて、たくさんの感想を書きいただきました。一部ご紹介します。
(一部、割愛または文面を変更しております。ご了承ください。)

○いろいろなツバメが知れて嬉しかったです。また、いろいろなツバメを観察したいです。

○10年以上も前から自宅の玄関の軒下にツバメが巣をつくっていました。毎年のことなのでカラス対策などはしているものの、時期はあまり気にしていませんでした。今回、観察を記録することで、時期・日数などを改めて知ることができました。今年は巣の崩壊、ヒナの落下などアクシデントがあったが、アクシデントがあることが普通のツバメを取り巻く生活なのかもしれないです。知らないことだらけのツバメの生態を少しでも知ることができれば幸いです。

○見過ごしていた所にツバメや巣があることに改めて気づく良い機会になりました。ツバメだけでなく、ほかの野鳥にも注目するようになり思っていたよりも多くの種類が身近にいることがわかりました。

○なんとなくツバメを見かけなくなったので、意識して注目してみたら本当にツバメが来なくなっているんだなと実感しました。トンボやカエルも見かけなくなっているし、身近なところで気づきの多い体験でした。また他の生き物の調査があれば参加したいです。

○毎朝の散歩で沢山の生き物に出会います。ツバメは特に毎年同じ場所(家など)に遠方から来るというのが気になっていました。巣づくりから巣立ちまで親鳥の大変さを観察してみて感動です。悪天候の日はどうしてエサを見つけるのだろうか?とか、カラスに卵を取られたり、親鳥が交替でヒナを守ったり、ハラハラ、ドキドキしながら、盆過ぎ頃、集団になっていく頃には、淋しくもあり、ヤレヤレと安心したり、アッという間の4ヶ月でした。飛び立つツバメはカッコイイ!!と思いました。

○子どもとの散歩中に気軽にできそうと思い参加しました。勉強会は、予定が入っていたため参加できていなかったのですが、資料が同封されており、調査するのは難しくはなかったです。子どもがもう少し大きくなれば一緒に観察できより楽しく調査ができそうだと思います。普段あまり気にしていなかったのですが、ここに巣があるなど発見が新たにでき嬉しかったです。

○たくさんツバメが見れて楽しかったです。

○4月から6月まで親と楽しか見かけず、ヒナがちっとも生まれていない様子でがっかりしていました。6月27日にようやくピーピー鳴くヒナを見つけ、7月5日に巣から出て、飛び立っていく瞬間に居合わせたときには感動しました。

○ツバメに関心を持つようになりました。巣を観察したり、飛んでいると行先を目で追ってしまいます。来年が楽しみです。

○ツバメが身近な存在になり、参加してよかったです。家のすぐ近くの林が残るところより、ひらけたところや、民家の多い里の地域に多いことが実感として分かりました。

○参加できてよかったです。毎年ツバメが自宅に来てくれるのを楽しみにしています。

○日頃は何気なく見ていることを資料をみたり調査をする楽しさを感じました。勉強会はとても楽しかったので調査には参加できなくてもこんな機会があればいいなと思いました。

○こども達と楽しく探すことができ、良い時間を過ごすことができました。

○普段こんなに注目することはないので、色々な事を知れました。

○ツバメが大好きでいつも巣を探していたので調査があると知りとてもうれしかったです。勉強会ではツバメ好きの方が他にもたくさんいらっしゃることを知りうれしかったですし、先生のお話も大変勉強になりました。

○8年前の回目のツバメ調査のときお腹の中にいた子供(今8才です)と一緒に調査しました。その娘と手をつないでツバメの子育てを観察するのは感慨深いものがありました。7月末(7/30)連日の猛暑の中まだ子育てしているツバメには驚きました！調査の全体的な印象としましては、坂本5丁目の通学路周辺の民家屋外(軒下、玄関先など)での営巣は減っているように思います。今回も楽しく調査できました。ありがとうございました。

ご参加いただいた多くの市民調査員の皆様のご協力により、
無事に本調査を実施することができました。また、本調査の実施及び本書の作成にあたり、
植田 潤 先生にご指導、ご協力を賜りました。

ご協力いただいたすべての方に深く感謝申し上げます。

協力・出典

- 表紙：

身近な環境市民調査員

- 本文、写真：

湖北野鳥センター（長浜市湖北町今西1731） 所長 植田 潤 氏

身近な環境市民調査員の皆様

びわ湖大津観光協会

- Map-It マップイット | 地図素材サイト

https://map-it.azurewebsites.net/Map/%E6%BB%8B%E8%B3%80%E7%9C%8C___%E5%A4%A7%E6%B4%A5%E5%B8%82/lush

本書で使用した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものです（承認番号平30情複、第940号。）。本書の地図を複製する場合、新たに国土地理院の許可が必要になります。

令和6年度「身近な環境市民調査」
ツバメ調査結果報告書

令和7年3月 大津市環境政策課

この冊子の本文は、環境に配慮した再生紙を使用しています。

